

造形研究科博士前期課程（修士課程）／単位表

平成26・25年度入学（1・2年生）

〈美術専攻〉

●日本画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	日本画研究Ⅰ	8	日本画研究Ⅲ	8
		日本画研究Ⅱ	4		

●油絵コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	絵画研究Ⅰ	8	絵画研究Ⅲ	8
		絵画研究Ⅱ	4		

●版画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	版画研究Ⅰ	8	版画研究Ⅲ	8
		版画研究Ⅱ	4		

●彫刻コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	彫刻研究Ⅰ	8	彫刻研究Ⅲ	8
		彫刻研究Ⅱ	4		

●造形理論・美術史コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	造形学演習Ⅰ	6	造形学演習Ⅱ	6
		東洋美術史研究	2		
	選択必修	東洋美術史演習	2		
		西洋美術史研究	2		
		デザイン史研究	2		
		西洋古代美術研究	2		
		日本美術工芸史演習	2		
		近現代美術史演習	2		
		現代建築論	2		

※造形学演習Ⅱは平成26年度開講しない。

●芸術文化政策コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	芸術文化政策特論Ⅰ	4	芸術文化政策特論Ⅱ	4
		芸術文化政策演習Ⅰ	6		

〈デザイン専攻〉

●視覚伝達デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	視覚情報論Ⅰ	4	視覚情報論Ⅱ	4
		視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6

●工芸工業デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4
		プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6

●空間演出デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	空間演出デザイン特論Ⅰ	4	空間演出デザイン特論Ⅱ	4
		空間演出デザイン演習Ⅰ	6	空間演出デザイン演習Ⅱ	6

●建築コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	建築デザイン特論Ⅰ a	2	建築デザイン特論Ⅱ a	2
		建築デザイン特論Ⅰ b	2	建築デザイン特論Ⅱ b	2
	選択必修	建築設計演習Ⅰ	4	建築設計演習Ⅱ	4
		建築設計実習Ⅰ	4	建築設計実習Ⅱ	4
		建築デザイン演習Ⅰ	4	建築デザイン演習Ⅱ	4
				建築設計演習Ⅲ	4
専門Ⅱ類	選択			建築設計実習Ⅲ	4
		建築設計インターンシップⅠ	4	建築デザイン演習Ⅲ	4
		建築設計インターンシップⅡ	4		
		建築設計インターンシップⅢ	4		

●基礎デザイン学コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン論特論Ⅰ	4	デザイン論特論Ⅱ	4
		デザイン理論演習Ⅰ	6	デザイン理論演習Ⅱ	6

●映像コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	映像特論Ⅰ	4	映像特論Ⅱ	4
		映像設計演習Ⅰ	6	映像設計演習Ⅱ	6

●写真コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	写真特論Ⅰ	4	写真特論Ⅱ	4
		写真計画演習Ⅰ	6	写真計画演習Ⅱ	6

●デザイン情報学コース

平成26年度入学（1年生）

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン情報学特論Ⅰ	4	デザイン情報学特論Ⅱ	4
		デザイン情報学統合演習Ⅰ	6	デザイン情報学統合演習Ⅱ	6

平成25年度入学（2年生）

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン情報学特論Ⅰ	4	デザイン情報学特論Ⅱ	4
		デザイン情報学演習Ⅰ	6	デザイン情報学演習Ⅱ	6

授業科目・担当教員一覧

● ※ 印科目については、当該コースの必修科目ですが、他のコースの学生も共通科目として履修することができます。
● 単位の数字に（ ）がついているものは選択科目です。

美術専攻				
コース	授業科目	単位数	担当教員	
日本画 コース	日本画研究Ⅰ	8	内田あぐり	教授
	日本画研究Ⅱ	4	尾長良範	教授
	日本画研究Ⅲ	8	西田俊英	教授
			三浦耐子	教授
			山本直彰	教授
			川崎麻児	客員教授
			北澤憲昭	客員教授
			荒井 経	講師
			荒木享子	講師
			岩田壮平	講師
			柏原由佳	講師
			加藤良造	講師
			熊澤未来子	講師
			酒井祐二	講師
油絵 コース	絵画研究Ⅰ	8	赤塚祐二	教授
	絵画研究Ⅱ	4	遠藤彰子	教授
	絵画研究Ⅲ	8	樺山祐和	教授
			川口起美雄	教授
			小林孝亘	教授
			長沢秀之	教授
			袴田京太朗	教授
			丸山直文	教授
			水上泰財	教授
			木下 晋	客員教授
			南 嵩 宏	客員教授
			村瀬恭子	客員教授
			石川卓磨	講師
			泉原昭人	講師
			岩熊力也	講師
			開発好明	講師
			金田実生	講師
			坂口竜太	講師
			竹内 一	講師
			千葉正也	講師
			中崎 透	講師
			中嶋 明	講師
			永山裕子	講師
			平澤重信	講師
			眞島竜男	講師
			増田常德	講師
			山田和宏	講師
			小尾 修	講師
			塩谷 亮	講師
版画 コース	版画研究Ⅰ	8	池田良二	教授
	版画研究Ⅱ	4	遠藤竜太	教授
	版画研究Ⅲ	8	高浜利也	教授
			磯見輝夫	客員教授
彫刻 コース	彫刻研究Ⅰ	8	伊藤 誠	教授
	彫刻研究Ⅱ	4	戸谷成雄	教授
	彫刻研究Ⅲ	8	黒川弘毅	教授
			三沢厚彦	教授
			岡崎乾二郎	客員教授
			遠藤利克	客員教授
			高柳恵里	客員教授
造形理論・ 美術史コース	※ 西洋美術史研究	(2)	朴 亨國	教授
	※ 西洋古代美術研究	(2)	柏木 博	教授
	※ 日本美術工芸史演習	(2)	北澤洋子	教授
	東洋美術史研究	2	篠塚千恵子	教授
	※ 東洋美術史演習	(2)	田中正之	教授
	※ 近現代美術史演習	(2)	玉島敏子	教授
	※ デザイン史研究	(2)	松葉一清	教授
	※ 現代建築論	(2)		
	造形学演習Ⅰ	6		
	造形学演習Ⅱ	6		

○造形学演習Ⅱは平成26年度開講せず。

デザイン専攻				
コース	授業科目	単位数	担当教員	
芸術文化政策 コース	芸術文化政策特論Ⅰ	4	今井良朗	教授
	芸術文化政策演習Ⅰ	6	楳 義明	教授
	芸術文化政策特論Ⅱ	4	是枝 開	教授
	芸術文化政策演習Ⅱ	6	新見 隆	教授
			高島直之	教授
			米徳信一	教授
			杉浦幸子	准教授
			林 浩平	講師
			垣内恵美子	講師
視覚伝達 デザイン コース	※ 視覚情報論Ⅰ	4	新島 実	教授
	※ 視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	キュー・リーメイ・ジュリア	教授
	※ 視覚情報論Ⅱ	4	後藤吉郎	教授
	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6	齋藤啓子	教授
			陣内利博	教授
			寺山祐策	教授
			西本企良	教授
			白井敬尚	教授
			本田和男	教授
			古堅真彦	准教授
			山本尚樹	講師
			北條みざわ	講師
工芸工業 デザイン コース	※ プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	十時啓悦	教授
	プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	伊藤真一	教授
	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4	稲田真一	教授
	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6	大村俊二	教授
			鈴木 洋	教授
			中原俊三郎	教授
			西川 聡	教授
			鈴木純子	准教授
			田中桂太	准教授
			山中一宏	准教授
空間演出 デザイン コース	※ 空間演出デザイン特論Ⅰ	4	小竹信節	教授
	空間演出デザイン演習Ⅰ	6	天野 勝	教授
	空間演出デザイン特論Ⅱ	4	小泉 誠	教授
	空間演出デザイン演習Ⅱ	6	津村耕佑	教授
			バトリック・ライアン	教授
			五十嵐久枝	教授
			堀尾幸男	教授
			片山正通	教授
			太田雅公	教授
			鈴木康広	専任講師
建築 コース	建築設計インターンシップⅠ	(4)	源愛日児	教授
	建築設計インターンシップⅡ	(4)	高橋晶子	教授
	建築設計インターンシップⅢ	(4)	長尾重武	教授
	建築設計実習Ⅰ	(4)	長谷川浩己	特任教授
	建築設計実習Ⅱ	(4)	布施 茂	教授
	建築設計実習Ⅲ	(4)	鈴木 明	教授
	建築デザイン演習Ⅰ	(4)	菊地 宏	准教授
	建築デザイン演習Ⅱ	(4)	土屋公雄	客員教授
	建築デザイン演習Ⅲ	(4)	野沢正光	客員教授
	建築設計演習Ⅰ	(4)	アストリッド・クライン	客員教授
	建築設計演習Ⅱ	(4)		
	建築設計演習Ⅲ	(4)		
	建築デザイン特論Ⅰa	2		
	建築デザイン特論Ⅰb	2		
	建築デザイン特論Ⅱa	2		
	建築デザイン特論Ⅱb	2		
	建築計画特論	(2)		
	建築設備特論	(2)		
	建築設計特論	(2)		
	建築構法特論	(2)		

デザイン専攻				
コース	授業科目	単位数	担当教員	
基礎 デザイン学 コース	※ デザイン論特論Ⅰ	4	原 研哉	教授
	デザイン理論演習Ⅰ	6	板東孝明	教授
	デザイン論特論Ⅱ	4	宮島慎吾	教授
	デザイン理論演習Ⅱ	6	小林昭世	教授
			柴田文江	教授
			菱川勢一	教授
			吉田慎悟	教授
			沢 良子	講師
			岡村多佳夫	講師
			平尾 始	講師
映像 コース	※ 映像特論Ⅰ	4	板屋 緑	教授
	映像設計演習Ⅰ	6	黒坂圭太	教授
	映像特論Ⅱ	4	篠原規行	教授
	映像設計演習Ⅱ	6	三浦 均	教授
			クストフ・シャルル	教授
			小口詩子	特任教授
			橋本典明	講師
写真 コース	※ 写真特論Ⅰ	4	山崎 博	教授
	写真計画演習Ⅰ	6	小林のりお	教授
	写真特論Ⅱ	4	金子隆一	講師
	写真計画演習Ⅱ	6	大嶋 浩	講師
デザイン 情報学コース	※ デザイン情報学特論Ⅰ	4	今泉 洋	教授
	デザイン情報学特論Ⅱ	4	長澤忠徳	教授
	デザイン情報学演習Ⅰ	6	森山明子	教授
	デザイン情報学演習Ⅱ	6	井口博美	教授
	デザイン情報学統合演習Ⅰ	6	佐藤淳一	教授
	デザイン情報学統合演習Ⅱ	6	井上尚司	准教授
			白石 学	准教授
			高山 稔	専任講師
			特別講師	

○デザイン情報学統合演習Ⅱ、デザイン情報学演習Ⅰは平成26年度開講せず。

共通科目		
	授業科目	単位数
各コース 共通科目	造形民俗学研究	(4)
	西洋美術史研究	(4)
	西洋古代美術研究	(4)
	日本美術工芸史研究	(4)
	日本美術工芸史演習	(4)
	東洋美術史演習	(4)
	現代芸術研究	(4)
	近現代美術史演習	(4)
	デザイン史研究	(4)
	現代建築論	(4)
	現代都市論	(4)
	ユング芸術心理学研究	(4)
	芸術情報処理研究	(4)
	環境デザイン論	(4)
	環境生態学特論	(2)
	映像芸術論	(4)
	作家・作品研究	(4)
	美術教育研究	(4)
	教育学研究	(4)
	コンテクスチュアル・スタディーズ演習Ⅰ	(2)
	コンテクスチュアル・スタディーズ演習Ⅱ	(2)
	インタラクティブ・イノベーション演習Ⅰ	(2)
	インタラクティブ・イノベーション演習Ⅱ	(2)
他コース 履修可能 科目	視覚情報論Ⅰ	(4)
	視覚情報論Ⅱ	(4)
	視覚伝達デザイン演習Ⅰ	(6)
	プロダクトデザイン特論Ⅰ	(4)
	空間演出デザイン特論Ⅰ	(4)
	デザイン論特論Ⅰ	(4)
	映像特論Ⅰ	(4)
	写真特論Ⅰ	(4)
	デザイン情報学特論Ⅰ	(4)

○美術情報処理研究、コンテクスチュアル・スタディーズ演習Ⅰ、
インタラクティブ・イノベーション演習Ⅰは平成26年度開講せず。

時間割

修士課程

博士後期課程

	1 時限 (9:00~10:30)	2 時限 (10:40~12:10)	3 時限 (13:00~14:30)	4 時限 (14:40~16:10)	5 時限 (16:20~17:50)
月		※空間演出デザイン 特論Ⅰ【空デ】 (空デ専任)	◎空間演出デザイン 特論Ⅱ【空デ】 (空デ専任)	※デザイン史研究 【造形理論】(柏木)	
		※写真特論Ⅰ 【写真】(大嶋)	※西洋美術史研究 【造形理論】(北澤)	☆現代都市論 (松葉)	
			△建築設備特論 【建築】〈前期〉(知久)		
火		☆教育学研究 (高橋)	☆映像芸術論 (シャルル)	☆日本美術工芸史研究 (玉蟲)	
		☆環境生態学特論 〈後期〉(渋谷)	☆美術教育研究 (大坪)	☆作家・作品研究 (三浦・シャルル)	※東洋美術史演習 【造形理論】(朴)
		※日本美術工芸史演習 【造形理論】(玉蟲)	☆現代芸術研究 (田中)	☆ユング芸術心理学研究 (塚本)	
水		△建築計画特論 【建築】〈前期〉 (中川蔵)	◎造形学演習Ⅰ【造形理論】		
			※視覚情報論Ⅰ【視デ】(山本)		
				☆造形民俗学研究 (神野)	
木			※近現代美術史演習 【造形理論】(田中)	◎映像特論Ⅱ 【映像】(橋本典明)	
				※現代建築論 【造形理論】(松葉)	
				※デザイン論特論Ⅰ 【基礎デ】 〈前期〉(岡村) 〈後期〉(沢)	
		※西洋古代美術研究 【造形理論】(篠塚)	☆環境デザイン論 (祐乗坊)	◎プロダクトデザイン 特論Ⅱ【エデ】 (十時他)	
金	◎写真特論Ⅱ 【写真】(金子)	※映像特論Ⅰ【映像】 (映像専任)		◎デザイン論特論Ⅱ 【基礎デ】(平尾)	
				◎東洋美術史研究 【造形理論】(朴)	
土	◎デザイン情報学演習Ⅱ【デ情】 (デ情専任他)		☆インタラクティブ・イノベーション演習Ⅱ〈前期〉 ☆コンテクスチュアル・スタディーズ演習Ⅱ〈後期〉		※デザイン情報学特論Ⅰ 【デ情】(デ情専任他) ◎デザイン情報学特論Ⅱ 【デ情】(デ情専任他)
		△建築構法特論 【建築】〈前期〉 (三浦清史)	※視覚情報論Ⅱ【視デ】(視デ専任)		

[注] ●☆・・・各コース共通の選択科目

●◎・・・当該コースの必修科目

●※・・・当該コースの必修科目であるが、他のコースの学生も共通選択科目として履修できる。

●△・・・当該コースの選択科目

●コース別科目の教室については、当該研究室（造形理論・美術史コースは造形文化研究室）で指示を受けること。

理念・教育目標

造形学部では日本画の制作をととして、造形や美術史、素材の研究などから表現を深めてきましたが、大学院ではより解放された視点から日本画を捉えなおして自己の表現に向き合います。

日本画という言葉自体、絵画と国という概念を含んでいることから文化的な拠り所を意識することに繋がりますが、従来の日本画の価値観を受けとめるだけではなく、日本とは日本画とは何かを考えることや、グローバルな視点に立って同時代の芸術として意識し、制作することが重要になってきます。

大学院では、何を考えて造るのか？ どう表現するのか？ という問い、発表することの意味などに向き合います。それらの問いを論理的に進めることで表現への意識を深めることができるように考えています。

カリキュラムは各自の自主性をもとに行うことになりますが、展示ゼミや各種の伝統技法に対応したゼミなどを希望に応じて受けることができます。展示ゼミや様々な展覧会、個展などで発表の機会を重ねることで、客観的に自分の作品をみつめ、自己の表現への意識を深めます。

表現に対する「思考」と、制作と発表という「実践」を重ねて社会との関わりのなかで表現者として活動して行くのに必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

アドミッション・ポリシー

日本画をととして造形や美術史、素材の研究を行い、自主的に表現の可能性を追求したいという強い意欲を持つ学生を募ります。

カリキュラム・ポリシー

歴史や社会との関わりのなかで自己の表現を論理的に考えることで意識を深め、それに基づいた課題を設定し自主的に取り組みます。

表現への意識を深め、制作、発表を通して表現者として活動して行くために必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

ディプロマ・ポリシー

本学科では日本独自の文化を背景に現代の多様な価値観のなかで思考し創造できる専門性を持った表現者の育成を目標としています。

学位が授与されるためには以下のことが求められます。

- 表現に対応した技術を持ち、それを十分に深めているか。
- 自己の表現について主体的に取り組み、論理的にプレゼンテーションできるか。
- 歴史や社会との関わりのなかで自己の表現の意味を考えているか。

美術専攻 日本画コース

造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月						5月						6月						7月						8月	
日	7 ㄱ 12	14 ㄱ 19	21 ㄱ 26	28 ㄱ 3	5 ㄱ 10	12 ㄱ 17	19 ㄱ 24	26 ㄱ 31	2 ㄱ 7	9 ㄱ 14	16 ㄱ 21	23 ㄱ 28	30 ㄱ 5	7 ㄱ 12	14 ㄱ 19	21 ㄱ 26	7/28 ㄱ 8/30									
期		1期						2期						3期												
授業週	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	夏季休業									
学 事 予 定		科目履修登録 前期授業開始 4/14			祝日 4/29 振替休日 5/6 5/3 5/5					6/14・15 オープンキャンパス			前期授業終了 7/12	前期補講週間	※7/21は試験日 前期定期試験週間											
									教育実習																	
1 年		日本画研究Ⅰ																								
2 年		日本画研究Ⅲ																								

● オリエンテーション週間 4/7～12 ● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月			11月				12月			平成27年1月			2～3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31	
4期				5期				6期			7期								
16 後期授業開始 9／1	17 修正履修登録 9／5	18 祝日 9／15 は平常授業	19 祝日 9／23	20	21 院入試 A	22 祝日 10／13	10/20は平常授業 芸術祭活動 休講 10／31・11／1 10/30創立記念日	23 祝日 11／3 は平常授業	24	25 公募入試 11/24 23・24	26	27	28 後期授業終了 12／13	29 後期補講週間 編入学試験 外国人・帰国生入試	冬季休業	30 後期定期試験週間 1／5～10	卒制展 1／15～1／18 卒業制作論文提出採点 1／12～1／18	院入試 B 祝日 2／11 卒業式 3／17 祝日 3／21 院博士後期課程入試	
日本画研究Ⅰ								日本画研究Ⅱ											
修了制作								修了制作											

● 祭典 10/25～10/27 ● 冬期スクーリング 12/13～19 ● 卒制展 1/15～18

理念・教育目標

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、充実した制作環境と指導体制における作品制作が最も重要です。そこから生み出される作品は視覚的な美しさを持つだけでなく、批評的強度を持ちうるものでなければなりません。さらに大学院修了後に作品制作のエキスパートとして活動していくためには、自作品における可能性や問題点を客観的にとらえ、実践していけることが重要です。それには実制作だけにとどまらず作品の構造を論理的にとらえ、美術史や社会状況をふまえた柔軟な思考による研究姿勢が望まれます。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、絵画を中心に、インスタレーション、映像などさまざまなジャンルの美術作家を養成することを主な目的としています。そのため入学には作品に十分な内容と質を備えていることに加えて、知的好奇心を持ち、常に謙虚に学ぼうとする姿勢があり、作品制作、作品研究の双方に高い向上心を持って取り組めることが重要です。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、学生の主体的で自由な制作を最大限に活かせるようにカリキュラムを編成しています。美術作家の養成を明確な目的とした本コースでは、在学中から学生という立場を超えて、ひとりの美術作家として自らの作品制作・研究を行う意識を養うことが最も重視されます。そのため大学院1年次では「絵画研究Ⅰ」、2年次では「絵画研究Ⅱ」というように課題をシンプルに編成し、学生のさまざまな制作スタイルに柔軟に対応できるように配慮されています。そのなかで学生たちは、担当教員を中心にさまざまな教員や周りの学生たちとの対話のなかから作品制作の具体的な方向性を模索し、美術史や社会状況をふまえた深い思考による研究の機会を持ちます。またカリキュラムにかかわらず、活躍中の美術作家や美術批評家、学芸員などの外部からの特別講師などによる直接指導が随時行われ、学生の制作・研究をサポートしていきます。

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- 主体的に作品制作に取り組み、美術作家として質の高い独自の表現を身につける。
- 特に近年では、本コース修了生のなかから新世代の優れた美術作家が多数輩出され、さまざまな美術館やギャラリーなどに活躍の場を拓いている。
- 絵画を中心とした美術史・美術理論に幅広い知識を有し、それをふまえた観点から作品制作者としてのみならず、批評性を有した作品鑑賞者としても柔軟に美術をとらえることができる。
- 自らの作品制作を通じて様々な社会状況と有機的な関わりを模索し、美術の世界だけにとどまらず、社会性を持った美術作家としての意識を持つ。

美術専攻 油絵コース

造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月			5月			6月			7月			8月					
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30	
期		1期					2期				3期							
授業週	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	夏季休業	
学 事 予 定		前期授業開始 4/14	科目履修登録		祝日 4/29	振替休日 5/6				6/14・15 オープンキャンパス				前期授業終了 7/12	前期補講週間	※7/21は試験日 前期定期試験週間		
		教育実習																
1 年		絵画研究Ⅰ																
2 年		絵画研究Ⅲ																

● オリエンテーション週間 4/7～12

● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月			11月				12月			平成27年1月			2～3月	
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31
4期				5期				6期			7期							
16	17	18	19	20	21	22	10/20 芸術祭活動 10/30創立記念日	23	24	25	26	27	28	29	冬季休業	30	卒制展 1/15～1/18 卒業制作論文提出採点 1/12～1/18	卒業式 3/17 院博士後期課程入学 院部入試 祝日 2/11 院入試 B
修正履修登録 9/5 後期授業開始 9/1		祝日 9/15は平常授業		祝日 9/23		祝日 10/13		祝日 11/3は平常授業		公募入試 11/23・24 祝日 11/24		後期授業終了 12/13		後期補講週間 外国人・帰国生入試 編入学試験		後期定期試験週間 1/5～10		
絵画研究Ⅰ								絵画研究Ⅱ										
修了制作								修了制作										

● 祭典 10/25～10/27

● 冬期スクーリング 12/13～19

● 卒制展 1/15～18

理念・教育目標

めまぐるしく変化する現代の社会状況にあつて、版画も多様化し拡大・複合しているなかで、単に技法や知識の習得にとどまらず表現の本質を研究することが求められている。本学版画コースでは、日本の版画領域の根底にあるこの国の風土や文化を理解し真の伝統を継承する一方で、現代の社会状況を見据えて発信できる清新な版表現の獲得を目指している。版画研究を通して美術の本質の理解し、高度な専門性と豊かな教養を兼ね備えた表現者を育成し、文化の発展に寄与し社会に貢献することを目標とする。

アドミッション・ポリシー

版による表現に真摯に取り組み、作品によって社会に広く発信してゆく表現者を育成することを目指している。よつて、版画に対する広範な知識を持ち、独自の表現を提示できる技術を習得したうえで、美術表現の本質を深く研究することの出来る人材を求める。

- 創造の本質を問いながら、版画を通して独自の表現を追求できる人。
- 進取の精神をもって失敗を恐れず、版画のさらなる可能性を求めて研究を続ける人。
- 幅広い視野を持ちながらより専門性を深め、表現者としてだけでなく、社会人としても自立し得る人。

カリキュラム・ポリシー

全体
より専門的に、銅版・リトグラフ・木版・シルクスクリーンなどの主専攻とする技法による表現を研究しながら、必要に応じて版種をまたいだ制作や他の複数メディア表現への展開も可能とする。

1年次
各工房において、より高度な専門性を追求しながら、自由なテーマのもと制作を進める。

2年次
真摯に修了制作に取り組み、版画の新しい地平を切り開くような意欲溢れた高度な水準の作品制作を実践する。

ディプロマ・ポリシー

版画の歴史が積み重ねてきた伝統を重視しながらも、同時に、美術としての同時代性を追求する先進的な研究環境のもと、より専門性を深め、表現者としての真の創造性を具現化できたかを第一に問う。

- 明確なテーマ設定の下、個々の問題意識を起点に、独自の視点で表現を深化させる研究が出来たか。
- 個々の作品における表現者としての強度を裏付ける高度な造形力や、専門的な技術・技法が習得されているか。
- 展示を含めて社会との関係性を認識し、創作上の主張が的確に発信されているか。

美術専攻 版画コース

造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月				5月				6月				7月				8月	
日	7 ㄱ 12	14 ㄱ 19	21 ㄱ 26	28 ㄱ 3	5 ㄱ 10	12 ㄱ 17	19 ㄱ 24	26 ㄱ 31	2 ㄱ 7	9 ㄱ 14	16 ㄱ 21	23 ㄱ 28	30 ㄱ 5	7 ㄱ 12	14 ㄱ 19	21 ㄱ 26	7/28 ㄱ 8/30	
期		1期					2期					3期						
授業週	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	夏季休業	
学 事 予 定		入学式 4/7 前期授業開始 4/14 科目履修登録			祝日 4/29 振替休日 5/6 5/3 5/5					6/14・15 オープンキャンパス				前期授業終了 7/12	前期補講週間	※ 7/21 は試験日 前期定期試験週間		
									教育実習									
1 年																		
2 年																		

● オリエンテーション週間 4/7～12 ● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月			11月				12月			平成27年1月			2～3月	
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31
4期				5期				6期			7期							
16 後期授業開始 9／1	17 修正履修登録 9／5	18 祝日 9／15 は平常授業	19 祝日 9／23	20	21 院入試 A	22 祝日 10／13	10/20は平常授業 芸術祭活動 休講 10／31・11／1 10/30創立記念日	23 祝日 11／3 は平常授業	24	25 公募入試 11／23・24	26 祝日 11／24	27	28 後期授業終了 12／13	29 後期補講週間 外国人・帰国生入試 編入学試験	冬季休業	30 後期定期試験週間 1／5～10	卒制展 1／15～1／18 卒業制作論文提出採点 1／12～1／18	院入試 B 院博士後期課程入試 学部入試 祝日 2／11 卒業式 3／17 祝日 3／21
版画研究Ⅰ (版種別専攻)								版画研究Ⅱ (版種別専攻)										
修了制作 (版種別専攻)								修了制作 (版種別専攻)										

● 祭典 10/25～10/27 ● 冬期スクーリング 12/13～19 ● 卒制展 1/15～18

理念・教育目標

彫刻コースは、対外的な発表を含み実際に社会に対して表現を発信して行く場として、世界的な視野に立ち 専門家として自立して創作・研究活動を行う人材を育成することを目的とします。

アドミッション・ポリシー

専門的な個人指導に加えて、国内外で活躍する作家、研究者による理論と制作両面のゼミが計画的に行われます。追求すべきテーマを持ち、専門的な多方面からの批評と指導の中で研鑽を深化することのできる人材を募ります。

- 彫刻における優れた表現技術を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 独自の表現領域を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 彫刻の表現に疑問を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。

カリキュラム・ポリシー

彫刻コースの研究課程は段階的な指導を踏むわけではなく、対外的な発表を含めた各自の制作計画を前提とします。各自の研究テーマに従った専門性・独自性の追求が核となりますが、それ以上に 作品を成り立たせている基盤を問う事を主眼とした指導を行います。2年間を通じての計画概要とは、そのための方法論、技術、メディアの追求、作品と社会に関わらせる手段の考察、自己の作品に対する批判的な展開の可能性、等について客員教授を含めた美術批評等様々な他領域との複合的な批評を行います。

ディプロマ・ポリシー

彫刻を基盤とした美術に関わる専門家として優れたオリジナリティを持ち、社会に対して自立して活動できる人材を育成するという目的において、コースにおける最終的な研修成果を問うために、修了制作（公開展示）として次の事項について研究室教員全員で総合的に判断し評価します。

- 表現の独自性が探求されているか。
- 表現における優れた技術が認められるか。
- 自己のテーマに沿った制作の展開が行われたか。
- 表現者として意識を持ち、対外的な発表が積極的行われたか。

美術専攻 彫刻コース
造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月				5月				6月				7月				8月	
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30	
期		1期					2期				3期							
授業週	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	夏季休業	
学 事 予 定	入学式 4/7 前期授業開始 4/14	科目履修登録			祝日 4/29 振替休日 5/6 5/3 5/5					6/14・15 オープンキャンパス				前期授業終了 7/12	前期補講週間	※ 7/21は試験日 前期定期試験週間		
										教育実習								
1 年																		
2 年																		

● オリエンテーション週間 4/7～12 ● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月			11月				12月			平成27年1月			2～3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31	
4期				5期				6期			7期								
16	17	18	19	20	21	22	10/20 芸術祭活動 10/30創立記念日	23	24	25	26	27	28	29	冬季休業	30	卒制展 1/15～1/18 卒業制作論文提出採点 1/12～1/18	卒業式 3/17 院博士後期課程入学式 院入試 B 祝日 2/11	
修正履修登録 9/5 後期授業開始 9/1		祝日 9/15 は平常授業		祝日 9/23		祝日 10/13	休講 10/31・11/1	祝日 11/3 は平常授業		公募入試 11/23・24		祝日 11/24		後期授業終了 12/13	後期補講週間 外国人・留学生入試 編入学試験		後期定期試験週間 1/5～10		
彫刻研究Ⅱ								彫刻研究Ⅱ											
修了制作								修了制作											

● 祭典 10/25～10/27 ● 冬期スクーリング 12/13～19 ● 卒制展 1/15～18

理念・教育目標

修士課程美術専攻 造形論理・美術史コースでは、造形表現の歴史的、理論的な研究を学ぶ。研究対象は、時代としては古代から現代まで、地域としては日本、東洋、西洋、また分野としては美術、工芸、デザイン、建築を対象とし、諸ジャンルや境界にとらわれない総合的な教育を行う。また作品に表されているものそれ自体を感覚と知性を働かせて解明し、作品の意義を探究する能力の習熟を目指す。

アドミッション・ポリシー

自分の研究テーマを持ち、それを探究するための健全な主体性と行動力を有し、問題を追及するための洞察力を真剣に身に付けようとする学生を求めている。各自のテーマに必要な文献資料（史料）を読むための語学力をそなえていることを求める。学部の段階で美術史・芸術学を学んだものだけではなく、実技・制作を学んだ人たちの入学も歓迎する。

カリキュラム・ポリシー

本コースの理念・教育目標に従い、総合的かつ専門的な学修が可能なカリキュラムを編成する。美術史学の課題は、伝存する作品ないし現代の作品を調査分析して、美術の歴史的展開を明らかにすることである。印象のみによる独白は求められない。図像学の手法による場合でも、意味論に傾き過ぎることなく、作品の質を問題にする。眼の記憶を豊かにし、各々の目の判断力を伸ばすために、授業とともに美術館、博物館、修復工房などの見学、古美術研究旅行を行っている。担当教員だけでなく、演習発表を通して複数の教員が指導にあたり、広い視野から問題を検証する。

ディプロマ・ポリシー

必要な単位を修得し、修士論文を提出し合格したものに学位を与える。課程の大成である修士論文は、学外からの批評に耐えうる内容となることを目指す。論文は、問題設定の独自性、新知見の有無、検証方法の正当性、史資料の調査能力と分析能力、論述能力などについて、総合的に判断され、評価される。

美術専攻 造形理論・美術史コース

時間割

	1時限 (9：00～10：30)	2時限 (10：40～12：10)	3時限 (13：00～14：30)	4時限 (14：40～16：10)	5時限 (16：20～17：50)
月			※西洋美術史研究 (北澤)	※デザイン史研究 (柏木)	
				☆現代都市論 (松葉)	
火		※日本美術工芸史演習 (玉蟲)	☆現代芸術研究 (田中)	☆日本美術工芸史研究 (玉蟲)	※東洋美術史演習 (朴)
水			◎造形学演習 I		
木		※西洋古代美術研究 (篠塚)	※近代美術史演習 (田中)	※現代建築論 (松葉)	
金				◎東洋美術史研究 (朴)	

☆……各コース共通の選択科目
◎……当該コースの必修科目
※……当該コースの選択必修科目であるが、他のコースの
学生も共通選択科目として履修できる。

理念・教育目標

本コースでは、芸術文化を、徹底して、社会的現象とその起爆剤としてとらえ、時代精神や社会の変化を、批判的、問題提起的に検証します。
 そうした視点から、文化的、人的、経済的な資源を有効に結びつけて、未来への新しい可能性をつくり出していく人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

芸術文化的事象を、社会的背景、時代相などとの、見えない関係のなかにとらえ、感じることでできる人材、さらには、高度な概念の創造性と、緻密で根気強いフィールドワークのあいだを、常にフィードバックしながら、研究をすすめていける人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

社会と文化を結ぶ領域でのさまざまな活動と政策のあり方、美術館・博物館をはじめとしたさまざまな文化施設、企業メセナや自主的なNPOやNGOなどの活動の展開、さらには、政府や自治体によるガヴァメント・ポリシーとしての文化政策の歴史と現状を学びます。
 さらには、美術史、デザイン史、現代芸術論、芸術社会学などの知見を基盤にして、比較文化と比較文明学の方法論を取り入れながら、新しい文化プロデュースと、文化政策のヴィジョン策定とマネジメントの方法論を研究します。

ディプロマ・ポリシー

実践的フィールドワークと、文化政策の新しい理論体系づくりを、同時並行でおこなう研究を重視します。グローバルかつローカルな視野を実践的な調査研究で養い、新たな価値観を形成し、発信するための研究、社会における文化芸術の役割を変貌させ、互いの仕組みをよりポジティブに変革させていくための研究を行うことを最終目標とします。

美術専攻 芸術文化政策コース

造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月			5月				6月				7月				8月	
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30
期		1期					2期				3期						
授業週	オリエンテーション週間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	夏季休業
学 事 予 定	入学式4/7	科目履修登録 前期授業開始4/14			祝日4/29 振替休日5/6 5/3					6/14 オープンキャンパス 15				前期授業終了7/12	前期補講週間	※7/21は試験日 前期定期試験週間	
1 年		芸術文化政策演習Ⅰ(木3)															
		[専任教員]															
		芸術文化政策特論Ⅰ(金4)															
		[垣内]															
2 年		芸術文化政策演習Ⅱ(金3)															
		[専任教員]															
		芸術文化政策特論Ⅱ(月2)															
		[今井・新見・杉浦]															

• オリエンテーション週間 4/7～12

• 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月			11月				12月			平成27年1月			2～3月	
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31
4期				5期				6期			7期							
16 後期授業開始 9/1	17 修正履修登録 9/5	18 祝日 9/15 は平常授業	19 祝日 9/23	20	21 院入試 A	22 祝日 10/13	10/20 は平常授業 10/30 創立記念日	23 祝日 11/3 は平常授業	24	25 祝日 11/24 公募入試 11/23・24	26	27	28 後期授業終了 12/13	29 後期補講週間 外国人・帰国生入試 編入学試験	冬季休業	30 後期定期試験週間 1/5～10	卒制展 1/15～1/18 卒業制作論文(提出採点) 1/12～1/18	卒業式 3/17 祝日 3/21 院博士後期課程入試 学部入試 祝日 2/11 院入試 B
芸術文化政策演習 I(木4)																		
[高島]																		
芸術文化政策特論 I(火3)																		
[林]																		
芸術文化政策演習 II(金3)																		
[専任教員]																		
芸術文化政策特論 II(木3)																		
[今井・新見・杉浦]																		

• 祭典 10/25～10/27

• 冬期スクーリング 12/13～19

• 卒制展 1/15～18

デザイン専攻 視覚伝達デザインコース

修士課程

博士後期課程

理念・教育目標

修士課程前期視覚伝達デザインコースはヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン領域における表現、手法、理論において、デザインの高度化への社会の要請に応え、かつ国際的にも活躍しうる人材を育成します。その領域は学部の視覚伝達デザイン領域に含まれるグラフィック、視覚情報、視覚環境系はもとより、デザイン方法論、デザイン史、ソーシャルデザイン、他の学際領域とのコラボレーションによる新たなデザイン領域の開拓等が含まれます。

アドミッション・ポリシー

私達が望む院生の人物像とは、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの分野において、自身の研究テーマあるいは制作活動をより深く詳細に独自の視点で展開し、デザインの今日的なあるいは近未来的な問題解決に取り組もうとしている人。

カリキュラム・ポリシー

大学院教育で視覚伝達デザインコース入学者全員に必須とされているのは

- (1) 全ての視覚的な媒体の分析の基本として視覚記号論を学ぶ。
- (2) 情報に対する創造的なリサーチと分析、編集、統合(視覚的シンタックス)手法の学習。
- (3) 生態学的知覚論と心理学を軸とした学際領域の地検の習得。
- (4) 国際的なデザイン領域を学び、新たなソーシャルデザインの可能性の発見。

共通必修と並行して1年次から専任教員が主査として、入学者の学習目的にあわせて徹底した専門教育を行い、修士論文または修士制作に繋げていきます。必要な場合、副査指導教員として学内外の専門家を招聘することもあります。

ディプロマ・ポリシー

2年間の研究あるいは制作が独自の視点を持ち、社会の批判に耐え得る内容を伴っているかが問われることになります。デザインの諸領域に対するアプローチの場合、そのアプローチの設定の独自性が問われることになり、デザインを通じて社会に働きかけをするアプローチの場合は、フィールドワークの充実が必須の条件となります。指導教員による評価と修論・制作発表会における外部からの批評を経て修了に対する最終評価が行われます。

デザイン専攻 視覚伝達デザインコース

造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月				5月				6月				7月				8月	
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30	
期		1期					2期				3期							
授業週	入学式4/7 オリエンテーション週間	1 科目履修登録 前期授業開始4/14	2	3	4 祝日4/29 振替休日5/6 5/3と5	5	6	7	8	9 6/14・15 オープンキャンパス	10	11	12	13 前期授業終了7/12	14 前期補講週間	15 ※7/21は試験日 前期定期試験週間	夏季休業	
学 事 予 定										教育実習								
1 年		視覚伝達デザイン演習Ⅰ(寺山・北條) 視覚情報論Ⅰ(山本) 修了論文・制作指導(キュー・後藤・齋藤・白井・陣内・寺山・新島・西本・古堅・山本)																
2 年		視覚伝達デザイン演習Ⅱ(新島・陣内) 視覚情報論Ⅱ(キュー) 修了論文・制作指導(キュー・後藤・齋藤・白井・陣内・寺山・新島・西本・古堅・山本)																

● オリエンテーション週間 4/7～12 ● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月			11月				12月			平成27年1月				2～3月	
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31	
4期				5期				6期			7期								
16 後期授業開始 9/1	17 修正履修登録 9/5	18 祝日 9/15 は平常授業	19 祝日 9/23	20	21 院入試 A	22 祝日 10/13	10/20は平常授業 芸術祭活動 休講 10/31・11/1 10/30創立記念日	23 祝日 11/3 は平常授業	24	25 公募入試 11/23・24	26 祝日 11/24	27	28 後期授業終了 12/13	29 後期補講週間 外国人・帰国生入試 編入学試験	冬季休業	30 後期定期試験週間 1/5～10	卒制展 1/15～1/18 卒業制作論文提出採点 1/12～1/18	院入試 B 学部入試 祝日 2/11 院博士後期課程入試 卒業式 3/17 祝日 3/21	
視覚伝達デザイン演習Ⅰ(寺山・北條)																			
視覚情報論Ⅰ(山本)																			
修了論文・制作指導(キュー・後藤・齋藤・白井・陣内・寺山・新島・西本・古堅・山本)																			
視覚伝達デザイン演習Ⅱ(新島・陣内)																			
視覚情報論Ⅱ(キュー)																			
修了論文・制作指導(キュー・後藤・齋藤・白井・陣内・寺山・新島・西本・古堅・山本)																			

● 祭典 10/25～10/27 ● 冬期スクーリング 12/13～19 ● 卒制展 1/15～18

理念・教育目標

博士課程前期工芸工業デザインコースでは、専門性を追求する上で、より時間を費やしあらゆる試行を繰り返し検証できることを目標にしています。プロダクトデザイン全般において多様化する考え方への認識を深め、他方向への選択肢など考察しながら、より精度の高いデザインを追求することを研究室一体となり取り組みます。クラフトデザイン領域ではファインアートに向かう専門家から絵画、造形表現を背景に魅力あるカタチをもとにアプライドアートとして社会との接点を重視し養成することを目指します。

アドミッション・ポリシー

工芸工業デザインコースは世の中に優良なデザイン商品を提案しようとするデザイナー資質を有する者、またファインアートに至るまでモノの本質にせまる作家志向の人材を選びます。それぞれ目標は異なりますが、社会に必要な道具や作品に対して時間をかけ再度掘り下げ熟考できる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

プロダクトデザイン系では1年次ではこれまでのモノ作りのあり方、また既存のデザインについて検証すること、日本と海外のモノの流れや考え方を分析し2年次ではさらに論評を加え各自の研究分野の方向性を専門教員と探って行きます。クラフトデザインでは日本独自の工芸研究を含め、高度な技術や表現方法を身につけ思考の熟成を促し習作を重ねさらに文章化すること、2年次では社会に還元できるモノ作りの姿勢を探究し、文化を牽引する表現を視野に入れ、作品制作を重く位置付けます。

ディプロマ・ポリシー

過去、現在の生活環境のあらゆるデザインをリサーチ、検証し文章等でまとめる。技法、それを取り巻くツール及び多岐にわたる素材の研究。日本と海外のモノ（工芸作品を含む）の流れや考え方がレポートされていること。社会に反映させるべく考察がなされ、各自のデザインしたモノ、作品が現代社会にどのように受け入れられるか、または貢献出来るかどうかの判断が修士論文（作品）として評価されます。

デザイン専攻 工芸工業デザインコース

造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月				5月				6月				7月				8月	
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30	
期		1期					2期				3期							
授業週	入学式4/7 オリエンテーション週間	1 前期授業開始4/14 科目履修登録	2	3	4 祝日4/29 振替休日5/6 5/3 5	5	6	7	8	9 6/14・15 オープンキャンパス	10	11	12	13 前期授業終了7/12	14 前期補講週間	15 ※7/21は試験日 前期定期試験週間	夏季休業	
学 事 予 定										教育実習								
1 年		第1TERM 【方法論の理解とトライアル】 ●研究目的の探究 ●テーマ設定のスタディ ●情報収集と分類・分析—I ●コンセプトメイキング ●主旨内容構築 ●情報収集と分類・分析—II																
2 年		第3TERM 【造形及びデザインングのトライアル】 ●第1TERM、第2TERMの成果物の再確認と軌道修正 ●造形、デザインングの展開とプロセス ●モデル試作—IIによる検証 ●制作開始																

●オリエンテーション週間 4/7～12

●夏期スクーリング 7/25～8/31

9月			10月			11月			12月			平成27年1月			2～3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31
4期			5期				6期			7期								
16	17	18	19	20	21	22	10/20 芸術祭活動 10/30 は平常授業 休講10/31・11/1	23	24	25	26	27	28	29	冬季休業	30	卒制展1/15～1/18 卒業制作論文提出採点1/12～1/18	卒業式3/17 院博士後期課程入試 学部入試 祝日2/11 院入試B
後期授業開始 9/1		修正履修登録 9/5		祝日9/15 は平常授業		祝日9/23		祝日11/3 は平常授業	公募入試11/23・24		祝日11/24	後期授業終了 12/13		後期補講週間 外国人・帰国生入試 編入学試験	後期定期試験週間 1/5～10		祝日3/21	
第2TERM 【研究の理論的アプローチと図式のトライアル】																		
●第1TERMのまとめと確認 ●中間プレゼンテーション ●完成形のイメージネーションの構築 ●モデル試作—Iによる検証 ●講評																		
第4TERM 【造形及びデザインングのまとめ】																		
●制作継続 ●第3TERMの最終まとめ ●表現方法の検討 ●プレゼンテーション方法の検討と作成 ●講評																		

●祭典 10/25～10/27

●冬期スクーリング 12/13～19

●卒制展 1/15～18

デザイン専攻 空間演出デザインコース

修士課程

博士後期課程

理念・教育目標

空間演出デザインコースは、舞台美術全般、インテリアデザイン、環境デザイン、ファッションデザインに基点を置きながら、固有の研究テーマを掲げ、人間を取り巻くあらゆる空間的な関わりの中で、文化的な役割を背景とした豊かな想像力と共に、より高度な造形創造を手にするスペシャリストの育成を目的とする。

アドミッション・ポリシー

発展すべき明快かつ高度な研究テーマを持ち、自己の社会的確立を目指しながら、領域にとらわれない自由な発想を持ち得る個性豊かな人材であることを求める。

カリキュラム・ポリシー

2年間の研究計画の間、指名制による教員とのプログラム作成をもとに、随時必要に応じた多彩な専門分野からの教員による複合的な指導も可能であり、方法論だけではなく高度な技術的指導もプロセスに加えながら、領域間を自在に往来出来る体勢での指導を行う。

ディプロマ・ポリシー

本学科の特徴を生かした複合的な観点から、研究成果として修了制作の発表を全教員のもとで行い、隣接する各領域からの多角的な批評に加え、優れた表現を前提とした独自性、可能性などを問い、それらを総合的に評価する。

デザイン専攻 空間演出デザインコース

造形専門科目教育課程表

月	平成26年4月			5月			6月			7月			8月				
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30
期		1期					2期				3期						
授業週	入学式4/7 オリエンテーション週間	1 科目履修登録 前期授業開始4/14	2	3	4 祝日4/29 振替休日5/6 5/3～5	5	6	7	8	9 6/14・15 オープンキャンパス	10	11	12	13 前期授業終了7/12	14 前期補講週間	15 ※7/21は試験日 前期定期試験週間	夏季休業
学 事 予 定										教育実習							
1 年		空間演出デザイン演習Ⅰ ○専任 空間演出デザイン特論Ⅰ(月2) ○専任															
2 年		空間演出デザイン演習Ⅱ ○専任 空間演出デザイン特論Ⅱ(月3) ○専任															

● オリエンテーション週間 4/7～12 ● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月			11月				12月			平成27年1月			2～3月	
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31
4期				5期				6期			7期							
16 後期授業開始9/1	17 修正履修登録9/5	18 祝日9/15は平常授業	19 祝日9/23	20	21 院入試A	22 祝日10/13	10/20は平常授業 芸術祭活動 休講10/31・11/1 10/30創立記念日	23 祝日11/3は平常授業	24	25 公募入試11/23・24	26 祝日11/24	27	28 後期授業終了12/13	29 後期補講週間 外国人留学生入試 編入学試験	冬季休業	30 後期定期試験週間1/5～10	卒制展1/15～1/18 卒業制作論文提出採点1/12～1/18	院入試B 学部入試 祝日2/11 院博士後期課程入試 卒業式3/17 祝日3/21
空間演出デザイン演習Ⅰ																		
○専任																		
空間演出デザイン特論Ⅰ(月2)																		
○専任																		
空間演出デザイン演習Ⅱ				修了制作														
○専任				○専任														
空間演出デザイン特論Ⅱ(月3)																		
○専任																		

● 祭典 10/25～10/27 ● 冬期スクーリング 12/13～19 ● 卒制展 1/15～18

理念・教育目標

建築コースは「価値ある空間の創出」を基本理念とし、室内から都市全体、ひいては地球環境に至る人間の活動を支える空間に関して、今日的あるいは普遍的な社会的課題を自ら発見し、実践的に取り組む人材を育成します。

専門的知識を備えながら、自然科学、人文科学、社会科学、芸術学にまたがる幅広く複眼的な視点で物事を捉え総合化していく力を持ち、豊かな感性と高い倫理性を備える人材の育成を目標とします。

アドミッション・ポリシー

- 建築、および環境デザインの領域において幅広い教養と知識を身につけながら、自身の研究テーマについて意識を強く持ち、継続的かつ段階的に展開する能力の高い人。
- 今日の社会的課題を自身の問題としてとらえ、実践的に関わろうとする意欲の高い人。
- 建築、および環境デザインの領域における高度な専門知識・技術習得に意欲の高い人。

カリキュラム・ポリシー

建築コースの研究過程は、自身の研究テーマを着実に段階的に展開・深化させるため、スタジオ制教育（少人数での特論・演習・実習）が中心となります。指導教員によって、分野およびテーマ展開の方向性が異なります。

1年次における客員教授による設計演習は、コース全体で実施される科目で、現代の生活環境を反映した課題が出され、構想から詳細なデザインまで一貫した視点を提示することが求められます。

一級建築士受験に必要な指定科目が開設され、必要な科目および単位数を履修することで受験資格を得られます。

ディプロマ・ポリシー

理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの修了単位数を満たし、修了制作・研究のテーマと最終成果が批評に耐えうる内容を持っているかを、以下の視点で指導担当教員全員が評価します。

- 制作・研究のテーマがもつ意義
- テーマを展開する際の創造性・独自性
- 制作・研究の完成度

デザイン専攻 建築コース

専門教育科目教育課程表

月	平成26年4月				5月				6月				7月				8月
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30
期		1期				2期				3期							
授業週	オリエンテーション週間	1 前期授業開始 4/14	2	3	4 祝日 4/29	5 振替休日 5/6	6	7	8	9 オープンキャンパス 6/14・15	10	11	12	13 前期授業終了 7/12	14 前期補講週間	15 ※7/21は試験日 前期定期試験週間	夏季休業
学 事 予 定										教育実習							
1 年		建築デザイン特論 Ia 建築設計演習 I 建築デザイン演習 I 建築設計実習 I・II・III															建築設計 インターンシップ I
2 年		建築デザイン特論 IIa 建築設計演習 II 建築デザイン演習 II 建築設計実習 I・II・III															建築設計 インターンシップ III

• オリエンテーション週間 4/7～12

• 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月				11月				12月				平成27年1月				2～3月
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31		
4期				5期				6期				7期								
16 後期授業開始 9/9	17 修正履修登録 9/15	18 祝日 9/15は平常授業	19 祝日 9/23	20	21 院入試 A	22 祝日 10/13	10/20は平常授業 芸術祭活動 10/30創立記念日 休講10/31・11/1	23 祝日 11/3は平常授業	24	25 公募入試 11/23・24	26 祝日 11/24	27	28 後期授業終了 12/13	29 後期補講週間 外国人留学生入試 編入学試験	30 後期定期試験週間 1/5～10	卒制展1/15～1/18 卒業制作論文提出採点 1/12～1/18	卒制展1/15～1/18 卒業式3/17 祝日3/21 院博士後期課程入試 学部入試 祝日2/11 院入試 B			建築設計 インターン シップII
建築デザイン特論 Ib																				
建築設計演習 I 建築デザイン演習 I																				
建築設計実習 I・II・III																				
建築デザイン特論 IIb																				
建築設計演習 III 建築デザイン演習 III																				
建築設計実習 I・II・III																				

• 祭典 10/25～10/27

• 冬期スクーリング 12/13～19

• 卒制展 1/15～18

大学院における一級建築士試験の実務経験について

建築士法改正に伴い平成21年度入学の大学院入学者から大学院における一級建築士受験資格の実務経験要件が変わりました。大学院で一級建築士試験の実務経験を取得する場合は、下記の科目構成を理解し、担当教員と相談の上、計画的に履修すること。

■ 科目構成（一級建築士試験における実務経験に係る科目）

1. インターンシップ

①学内インターンシップ

建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（源スタジオ、高橋スタジオ、布施スタジオ、菊地スタジオ）

②学外インターンシップ

建築設計インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ

2. インターンシップ関連科目

①演習・実験・実習（8単位以内）

建築設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（源スタジオ、高橋スタジオ、布施スタジオ、菊地スタジオ）

②講義科目（8単位以内）

建築設計特論、建築構法特論、建築設備特論、建築計画特論

■ 実務経験年数と必要単位数

1. 実務経験年数を1年とする場合

①一級建築士試験における実務経験に対応した指定科目を15単位以上取得すること

② インターンシップの単位を4単位以上取得すること

2. 実務経験年数を2年とする場合

① 一級建築士試験における実務経験に対応した指定科目を30単位以上取得すること

② インターンシップの単位を14単位以上取得すること

デザイン専攻 基礎デザイン学コース

理念・教育目標

基礎デザイン学コースでは、デザインの各専門領域、広く造形に通底する問題、あるいはデザイン論、デザイン史、さらに形態や色彩についての諸説やその歴史を、今日の情報・通信をはじめとする技術革新や産業・生活構造に位置づけながら、社会的・人間的・文明的な文脈において研究します。現在顕在化してきている情報やメディアのためのデザイン、社会のためのデザイン、グランドデザインの領域においても上記の視点からさまざまな問題が発見され、新たな研究領域が拓かれつつあります。また、それらの問題に対する理解や解決、批判あるいはデザインの提案に対しては、問題を総合的に捉える思考と方法論が求められています。基礎デザイン学は、社会的・人間的・文明的な文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていく創造的な研究領域であるといえます。

アドミッション・ポリシー

教育目標に基づいて、デザインの理解を社会的・人間的・文明的な文脈に広く求め、逆にそれらの文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていくことができる人材、また日常生活の中にそれを展開しうる人材、デザインばかりでなく、研究の視点によりそれらに貢献しうる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

2年間を通して、デザイン論特論を必修としています。その特徴は、デザインと美術に通底する造形の問題を歴史的な視点から批判的に検討すること、哲学と科学の方法論を記号論を中心として学ぶことにより総合的な視点を獲得することです。

デザイン理論演習では、専任教員により、以下のような専門的な指導を行います。

- コミュニケーション・デザインの手法
- デザインと科学を架橋する視点からの造形
- 生活におけるデザインの源泉としての「美」や「魅力」の実証的な研究とデザイン
- 表現の生成や構造に関する研究
- 造形（形態と色彩）の水脈を探る思想と理論
- インタラクションに基づくデザイン

ディプロマ・ポリシー

修士制作・論文に、2年間の研究成果が反映されていることが求められます。デザインの問題が発見され、それに対して総合的な視点からの検討がなされ、デザインあるいは研究の成果が知識資源として社会に貢献することを意図していることが求められます。

デザイン専攻 基礎デザイン学コース

時間割

		1	2	3	4	5
月	前			デザイン理論演習 I g・II g [吉田慎] 3・4 限/通年		デザイン理論演習 I b・II b [原]
	後					
火	前					デザイン理論演習 I c・II c [柴田]
	後	デザイン理論演習 I c・II c [柴田]		デザイン理論演習 I f・II f [宮島] 3・4 限		
水	前		デザイン理論演習 I a [板東]	デザイン理論演習 I f・II f [宮島] 3・4 限		
	後					
木	前	デザイン理論演習 I d [菱川]	デザイン理論演習 II a [板東] デザイン理論演習 II d [菱川]	デザイン理論演習 I e・II e [小林] デザイン論特論 I 前期: 岡村 / 後期: 沢良		
	後					
金	前				デザイン論特論 II [平尾]	
	後					
土	前					
	後			デザイン理論演習 I b・II b [原]		

凡例 授業名 [担当教員]

デザイン専攻 映像コース

理念・教育目標

映像学科の理念である「全方位的」「多面的」「総合的」な学習の上に、映像コースではそこから得られる本来の「専門性」を獲得することを目標としています。そのための技能や手法の確立や提示・発表形態の追求をとおして対外的にも発表し、社会の中で専門家として研究・制作活動を行う人材を育成することを目的とします。

アドミッション・ポリシー

映像コースの1,2年次は学部の5,6年次という継続する性格も含んでいます。したがって自身の制作をさらに展開することによって手法や技能を確かなものにし、自らの映像領域を築き上げようとしている人から、学部4年間では目標が達成できないと感じ基本的な学習を進めることから専門性を獲得しようとする人までを求めています。また、映像以外の他の領域を学習して来た人で、そこに映像領域を加えることで新たな領域を確立しようとしている人も募っています。

カリキュラム・ポリシー

本コースのカリキュラムは、学部で学んだ映像制作に必要な4つの言葉（映像、言語、音、造形）を自由に操る理論と技術をさらに高め、それらを用いて「自らの心と価値観」を表現することを学ぶ過程で、自己の成長を目指し、教員との自由な討論の場を自ら創り、そこから新しい表現の方法や可能性を探索するための過程です。

急速に進むグローバル化やこれから起こりえる様々な社会変化、技術革新、パラダイムシフトに対応できる幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断力を有する映像の研究者・表現者を養成します。

ディプロマ・ポリシー

研究・制作は選んだ指導教員と副指導教員で、基本的には個人指導で進めています。講評は映像コースと写真コースの専任全員で行い、評価は指導教員で行っています。1年次の終わりには1年間の研究制作発表が有り、2年次の修了制作において最終評価が行われます。その場合、2年間のテーマや手法の継続性や制作物が作品として成立するための技能の完成度や独自性を評価の基準としています。

デザイン専攻 映像コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	平成26年4月				5月				6月				7月				8月
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30
期		1期				2期				3期							
授業週	入学式4/7 オリエンテーション週間	1 前期授業開始4/14 科目履修登録	2	3	4 祝日4/29 振替休日5/6 5/3	5	6	7	8	9 6/14 オープンキャンパス	10	11	12	13 前期授業終了7/12	14 前期補講週間	15 ※7/21は試験日 前期定期試験週間	夏季休業
学 事 予 定										教育実習							
1 年		映像特論Ⅰ(金/2限) [三浦・黒坂] 映像設計演習Ⅰ[板屋・黒坂・三浦・シャルル・篠原・小口]															
2 年		映像特論Ⅱ(木/4限) [橋本・典明] 映像設計演習Ⅱ[板屋・黒坂・三浦・シャルル・篠原・小口]															

● オリエンテーション週間 4/7～12

● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月				11月				12月				平成27年1月				2～3月
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31		
4期				5期				6期				7期								
16 後期授業開始9/15	17	18 祝日9/15は平常授業	19 祝日9/23	20	21 院入試A	22 祝日10/13	10/20は平常授業 芸術祭活動 10/30創立記念 休講10/31・11/1	23 祝日11/3は平常授業	24	25 公募入試11/23・24	26	27	28 後期授業終了12/13	29 後期補講週間 外国人・留学生入試 編入学試験	冬 季 休 業	30 後期定期試験週間1/5～10	卒業制作論文提出採点1/12～1/18 卒制展1/15～1/18	院入試B 学部入試 祝日2/11 院博士後期課程入試 卒業式3/17 祝日3/21		
映像特論Ⅰ [板屋・篠原・小口]								映像特論Ⅰ [シャルル]												
映像設計演習Ⅰ[板屋・黒坂・シャルル・篠原・三浦・小口]																				
映像特論Ⅱ(木/4限) [橋本・典明]																				
映像設計演習Ⅱ[板屋・黒坂・シャルル・篠原・三浦・小口]																				

● 祭典 10/25～10/27

● 冬期スクーリング 12/13～19

● 卒制展 1/15～18

デザイン専攻 写真コース

理念・教育目標

写真コースは、映像ジャンルの中での静止画、静止映像としての写真表現を基軸に、批評的、創造的精神を備え、国内のみならず世界的に活躍できる表現者、研究者の育成を目標とします。

アドミッション・ポリシー

写真コースが望む学生像としては、ケミカルフォト、デジタルフォトそれぞれの技術習得に意欲を示し、その技術を基盤に独自の表現領域を開拓、実践する努力を惜しまない人。また、実社会と関わりを持ちながら、写真表現、映像表現の過去、現在、未来を探究、開拓しようとする人。

カリキュラム・ポリシー

写真が発明されてから今日までの道筋を写真史、美術史の両極から包括的に捉えながら学習、研究すると共に、時代の流れの中における個々の創作活動の立脚点を探り出し、独自の研究テーマを確立するための指導を行う。また、専任教員が主査として学生と深く関わり、個々の研究テーマに従って徹底した技術指導、表現指導を行う。合わせて、対社会を意識した展覧会活動、批評活動、他の映像領域との複合的表現の指導等、修士制作に向けて高度な学習指導を行います。

ディプロマ・ポリシー

2年間の最終的な成果を問う修了制作を実施し、専任教員が総合的に判断し評価します。評価基準としては、テーマ設定の独自性、表現内容のオリジナリティ、技術的完成度、批評性など。また対外的な発表活動なども評価の対象とします。

デザイン専攻 写真コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	平成26年4月				5月				6月				7月				8月
日	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	7/28 8/30
期		1期				2期				3期							
授業週	入学式4/7 オリエンテーション週間	1 前期授業開始4/14 科目履修登録	2	3	4 祝日4/29 5/3 5	5 振替休日5/6	6	7	8	9 6/14 15 オープンキャンパス	10	11	12	13 前期授業終了7/12	14 前期補講週間	15 ※7/21は試験日 前期定期試験週間	夏季休業
学 事 予 定										教育実習							
1 年		写真特論Ⅰ(月/2限) [大嶋浩] 写真計画演習Ⅰ[山崎・小林]															
2 年		写真特論Ⅱ(金/1限) [金子隆一] 写真計画演習Ⅱ[山崎・小林]															

● オリエンテーション週間 4/7～12

● 夏期スクーリング 7/25～8/31

9月				10月				11月				12月				平成27年1月				2～3月
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	10/21 11/1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	12/22 1/3	5 10	12 17	1/19 3/31		
4期				5期				6期				7期								
16 後期授業開始9/15	17 修正履修登録9/15	18 祝日9/15は平常授業	19 祝日9/23	20	21 院入試A	22 祝日10/13	10/20は平常授業 芸術祭活動 10/30創立記念日 休講10/31・11/1	23 祝日11/3は平常授業	24	25 公募入試11/23・24	26 祝日11/24	27	28 後期授業終了12/13	29 後期補講週間 外国人留学生入試 編入学試験	冬季休業	30 後期定期試験週間1/5・10	卒業制作論文提出採点1/12・1/18 卒制展1/15・1/18	院入試B 学部入試 祝日2/11 院博士後期課程入試 祝日3/21	卒業式3/17	
写真特論Ⅰ(月/2限) [大嶋浩]				写真計画演習Ⅰ[山崎・小林]																
写真特論Ⅱ(金/1限) [金子隆一]				写真計画演習Ⅱ[山崎・小林]																

● 祭典 10/25～10/27

● 冬期スクーリング 12/13～19

● 卒制展 1/15～18

デザイン専攻 デザイン情報学コース

理念・教育目標

美術大学という本学の教育環境は、理工学系とは異なる「美」を根幹とする思考体系と、「文化」を基盤とする人間の感性価値を重視するユニークな環境です。造形表現の特性を存分に生かしたデザイン情報学コースの教育は、「美」と「文化」と、これまで育んできた国際性を重視した教育研究を基盤とする新たな問題意識のうえに、望ましい科学技術文明の展望を内包した実践的なプロジェクト形式で行います。

ますます進化する国際社会で活躍する人材育成のために、英語による授業や指導なども充実させた国際教育プログラムとして展開されるデザイン情報学コースの新しい教育研究は、「クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究」、「経験を拡張するためのデザイン研究」という互いに深く関係し合うふたつの実践的なコア領域を設定し、同時にその基礎となるマネジメント等の理論研究を含むプログラムによる高度なデザイン人材育成を目指しています。

アドミッション・ポリシー

先端的な科学技術文明と生活をつなぐ「汎技術としてのデザイン知」を実社会に生かすために、「クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究」、「経験を拡張するためのデザイン研究」に関心を持ち意欲的に取り組む素質と目的意識を有する学生を求めています。また、社会経験で得た問題意識やリカレント教育への意欲を持つ職務経験者にも教育研究に参画してもらうべく、国内外からの有為の社会人学生を受け入れます。

カリキュラム・ポリシー

ふたつのコアとなる専門領域「クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究〈Practical Study on Creative Leadership〉」と「経験を拡張するためのデザイン研究〈Design Practice for Augmented Experience〉」および、その基礎となるデザイン思考と理論によってカリキュラムが構成されています。

●「クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究〈Practical Study on Creative Leadership〉」は、デザイン効用論をベースに、知的活動を行なう企業や社会組織で取り組むデザイン・プロジェクトにおける新しいカタチでのリーダーシップを育成するための実践的な研究です。デザイン活動の主体であるヒューマンリソースに関して、いかに既存の領域概念を打破し、新しい諸領域のインタラクションを実現するか。プロジェクトベースの実践体験や事例研究を通して、グローバルな視点や異文化コミュニケーションとコラボレーション能力を育み、より高度な創造的リーダーシップを育成する取り組みです。

●「経験を拡張するためのデザイン研究〈Design Practice for Augmented Experience〉」は、ネットワークコミュニケーションやITによる経験拡張技術の進歩とデザイン思考を組み合わせた取り組みです。ますます高度化する情報環境における私たちの経験を拡張する新たなデバイスやアプリケーションをデザイン研究し提案する試みです。情報科学や感性工学的な手法を活用して、美術大学という環境の特性を生かし、造形表現力を基盤とした新しい経験拡張のメディア表現やデザインの可能性を開拓します。

●基礎となるデザイン思考とその理論

ふたつのコア領域を生かす経営資源マネジメントの視点からのイノベーション力の陶冶も視野に入れたデザイン情報学を確立するための基礎理論および方法論、創造的プロジェクトの企画推進マネジメントおよび創発的組織運営の方法論、コンセプト・デザイン手法による経営資源マネジメントなどのデザイン思考と基礎理論を学びます。

ディプロマ・ポリシー

デザイン情報学の可能性を実践的かつ理論的に考究し、「イノベーション」と「クリエーション」という高度情報化社会を牽引する概念を、クリエイティブ・リーダーシップに関する実践的研究と経験を拡張するためのデザイン研究において具体的に体现し、また研究者、クリエイターとして、次代を担う国際社会で活躍する高度なデザインの専門性を有しているか、総合的な観点から評価します。

デザイン専攻 デザイン情報学コース

時間割

期	1 期 (4/14~5/17)	2 期 (5/19~6/14)	3 期 (6/16~7/12)	4 期 (9/1~9/27)	5 期 (9/29~10/18)	6 期 (11/3~11/22)	7 期 (11/24~12/13)
1 年	デザイン情報学特論Ⅰ						
	デザイン情報学統合演習Ⅰ						
2 年	デザイン情報学特論Ⅱ						
	デザイン情報学演習Ⅱ						
共通各 コース	インタラクティブ・イノベーション演習-Ⅱ [長澤・今泉ほか] (土3・4)			コンテクスチュアル・スタディーズ演習 -Ⅱ [長澤・今泉ほか] (土3・4)			